

こちら危機管理課お天気相談所

～気象防災アドバイザーによるすぐに役立つ気象情報を月1で配信～

※気象防災アドバイザーとは「地元の気象に精通し、地方公共団体の防災対応を支援することができる人材」として気象庁が委嘱した方です。



Yoshiaki Yano

“竜巻”と混同されやすい“じん旋風”

校庭や空き地などで、砂や塵が地面から渦巻き状に舞い上がっている現象をご覧になったことはないでしょうか。写真は運動会のときに撮られたものです。中には竜巻と呼ぶ方もいらっしゃるようですが、正しくは「じん(塵)旋風」と呼ばれています。

日射によって周囲よりも温められた地面付近の空気は、軽くなって上昇していくのですが、これに地上付近の建物や樹木などによって乱された風により生じた上下方向の渦がたまたま加わると、上昇する空気が引き伸ばされ“じん旋風”が発生することがあります。回転方向は時計回り、反時計回りのどちらもあります。高さはたえず変化することが多く、数10mになることもしばしばあります。



提供：古河市立下辺見小学校 2013年6月8日

同様な現象に“竜巻”や“つむじ風”がありますが、“竜巻”は積乱雲に伴う強い上昇気流

により生じる激しい渦巻きで、漏斗(ろうと)状の雲を伴います。“じん旋風”や“つむじ風”は、“竜巻”とは異なり、積乱雲などの雲に伴うものではありません。また、“つむじ風”は、地形や建物などに風が当たって地表付近に発生する渦巻きですが、寿命は短く、被害が生じることがまれで、ときには“じん旋風”に含めて取り扱われることもあります。

写真の“じん旋風”は撮影された後、奥に写っているテントや机・椅子などを吹上げ、児童6名に打撲などの軽傷を与えています。この写真を提供していただいた校長先生からは、“じん旋風”の特性や発生した時の対処などについて、予めの知識が欲しかったとお伺いしました。

イベントなどの開催中に“じん旋風”などの突風が吹き、負傷などが生じた場合、突風への対策が不十分であったとか、突風が起きた時に危険を回避するための呼びかけなどの対処が不適切だったとして、イベント主催者の責任が問われることもしばしばあり、ときには訴訟に持ち込まれるケースもあります。

“じん旋風”はそれほど長く続くものではありませんが、どちらの方向に進むか、どのぐらいの速さで進むか、予測できるものでもありません。運動会などのイベントは直ちに中断し、“じん旋風”から離れ十分な距離をとること、各自身を守ること、場合によっては校舎などに速やかに避難するよう求めることも必要になります。“じん旋風”の中に入っていく不届き者を見かけたこともあります。怪我をするなど危険ですので近づくのはやめましょう。飛ばされそうになったテントを押さえようとする人もいますが、数人で抑えにかかっても風の強さには勝てず返って怪我をしてしまいます。兎に角、離れることです。

屋外イベントなどの開催準備では、強い風が吹いたときのことを考慮し、飛ばされたり倒れたりすることがないように防止策を講じておきたいものです。

問い合わせ先
危機管理課災害対策係 電話 2274

令和3年10月7日
危機管理課発行